【積丹地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●ウニ陸上蓄養

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）			関連資料
地域MVにおける取組の位置付け	【地域の目指す姿】 当町の主要な観光資源の一つである「ウニ」の安定供給と、供給期間の延長により、漁業を軸に観光関連産業の振興を推進する。 【主な取り組み】 ・ウニの蓄養実施による安定供給	取組場所 第３種美国漁港 荷捌所内 	【取組の様子】
現状における取組実施の背景	町の主要な観光資源である「ウニ」は漁が海況に影響を受けやすいため、時化が続いた際は供給が足りず、町内飲食店業者等が観光客への販売機会を逃している状況が散見されている。 そこで、漁業者による陸上での蓄養を実施し、安定供給を目指した。		
取組により期待する効果	・時化等の際でも安定供給		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	【実施体制】東しゃこたん漁協浅海部会、積丹町、積丹地域マリンビジョン検討協議会 ① 漁獲したウニを蓄養水槽に入れ蓄養する。 ② ホソメコンブの給餌及び水槽の清掃を行う。 ③ 時化等の際に出荷する。 ※①～③のサイクル		
（3）効果項目に対する評価（Check）			
効果目標の達成度評価	８月(１回)と９月（１回）に陸上蓄養ウニの出荷を行い、評価も上々であった		
反省点	事業展開への検討が必要		
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	事業展開を検討しながら継続する。		
取組の実施に必要なもの	・蓄養水槽の整備費用及び設置場所の確保 ・作業体制の確立		

●ウニと藻場の循環型再生産

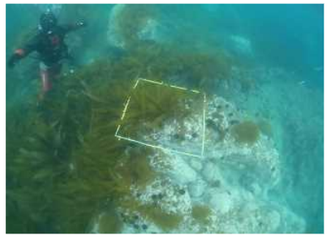
（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の目指す姿】 産業基盤の自然環境保全の推進、海域環境の保全 【主な取り組み】 ・ウニ殻成分を染み込ませたロープでホソメコンブ養殖。 ・ウニ殻を天然ゴムでブロック状に固めた施肥材を海中に設置 ・ウニ身入りの向上による経済効果の向上 ・ホソメコンブの食用・家畜飼料への活用	取組場所 第３種美国漁港周辺海域 第４種余別漁港周辺海域
現状における取組実施の背景	・町では、国の地方創生事業交付金を活用し、毎年大量に排出されるウニ殻の利活用方法の検討を行っていた。 ・その中で、既にウニ殻が農地での肥料として有効であり、農業用に堆肥化した商品も存在することから、ウニ殻を施肥材とし、町内の漁港で養殖しているコンブの生長や、磯焼け対策に役立てることが出来ないかと考えた。	
取組により期待する効果	・持続可能な漁業 ・循環型再生産 ・生態系保全 ・ゼロエミッション ・ブルーカーボン ・施肥事業の省力化とコスト削減	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	【実施体制】「水産多面的機能発揮対策事業」２地域協議会（美国・美しい海づくり協議会・余別・海 HUG くみたい）、積丹町、東しゃこたん漁業協同組合、積丹地域マリンビジョン協議会 ①　・養殖ロープ ウニ殻肥料を染み込ませた養殖ロープと、通常のロープで養殖施設を設置した。→ホソメコンブ増産 ・施肥ブロック 細かく砕いたウニ殻を天然ゴムでブロック状に固め、海中へ設置した。→藻場造成 ②　ウニの餌料の安定供給、ウニ生産量の増大 ③　ウニを採捕し、身は出荷のうえ、ウニ殻を確保する。 ※①～③のサイクル	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	ホソメコンブ生産量増 ・養殖ロープ 令和元年　通常ロープ 13 kg　ウニ殻肥料ロープ 50.0 kg 令和２年　通常ロープ 46.3 kg　ウニ殻肥料ロープ 59.7 kg ・施肥ブロック 美国地区　施肥を設置した場所にホソメコンブの繁茂が確認された。 西河地区　施肥の設置した場所にホソメコンブの着生は見られなかった。 ・藻場構成の経済効果 身入りで 1.5 倍と品質の向上により生産量で 1.5 倍、生産金額で 1.5 倍以上 ・食用・家畜飼料 ホソメコンブを食用として東しゃこたん漁業協同組合直売所で販売した。 ホソメコンブを飼料として使用した「しおかぜ羊」を出荷した。 （令和２年度　２頭出荷、令和３年度　２０頭出荷） ・全国青年・女性漁業者交流大会 令和３年３月２日に開催された当該大会において、農林水産大臣賞を受賞した。 ・総務省主催　過疎地域持続的発展優良事例表彰 令和４年１０月２０日　全国過疎地域連盟会長賞を受賞した。	
反省点	施肥ブロックを設置した西河地区は、藻場が近くにないことから、ホソメコンブの胞子の密度が極端に少ないためホソメコンブの着生が見られなかったと思われるので、今後、実施方法等を検討しながら継続実施していく。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・施肥ブロックをネットに入れると重く設置作業が困難となるため、事業展開ではネットに入れずブロックを海中に設置することでさらに省力化が図られる	
取組の実施に必要なもの	・作業する人員の確保	

関連資料

【取組の様子】

ウニ殻施肥作成

ウニ殻設置地区



対照区

●船上活〆鰤「鰤宝（しほう）」

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の目指す姿】 積丹ブランドの形成と販売の強化 【主な取り組み】 ・良型の鰤の船上活〆 ・船上活〆記の導入 ・魚槽の保温性確保	取組場所 第３種美国漁港周辺漁場 （大型定置網）
現状における取組実施の背景	北海道沿岸で水揚げ定着してきており、各地でブランド化が取り組まれている。積丹地域でも多くの鰤が漁獲されており、高鮮度出荷により差別化を図り、ブランド化するものである。	
取組により期待する効果	・ブランド化 ・価格の向上	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	【実施体制】東しゃこたん漁協、積丹地域マリンビジョン協議会 ・美国沖の大型定置網で漁獲される良型の鰤を船上で活〆 ・寄港後に滅菌海水によりエラ洗浄し、「フィッシュアナライザ」での脂肪率計測し、基準(重量 7kg 以上、脂肪率 15%以上)を満たしたものにタグの取り付け、発泡にいれ出荷している。	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	・鰤の魚価向上 ・令和３年度は野〆と比べ、平均２００円／ｋｇ程の高値が付ついた。 （今年度は集計中） ・品質向上のため、傷、色を選別基準に出荷。	
反省点		
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・鰤宝のワンランク上のブランドを検討していく ・ブランドの認知度向上 ・鰤にはコエンザイムＱ１０が多く含まれており(町及び株式会社カネカ調べ)、付加価値向上に繋げる検討をしていく。	
取組の実施に必要なもの	・作業する人員の確保	

関連資料

【取組の様子】

コエンザイムＱ１０の量